
青春の肖像 8

山之内 白洞人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春の肖像 8

【Nコード】

N 8 1 2 9 F

【作者名】

山之内 白洞人

【あらすじ】

遠い思い出の少女像を今は老いた私が振り返ります。

第8章

8、突然の訪問

それは6月のある日曜日だったと記憶している。私は午前中買い物
を済ませ、

下宿で読みかけの小説など読んでいた。

その時何か外が、気配がするのだった。

ふと窓を見ると、そこに懐かしい顔がいた。

野梨子だった。

『先生、来ちゃったよ』無邪気に笑う野梨子がいた。

そしてなんと後ろには渡部さんもいたのだ。

私は何かほっとしたのを今でも覚えている。

なぜって、もし野梨子だけだったら、私と二人きりで、どうなっ
ていたのか？

いや勿論私は野梨子に対して、何もするはずもなかったし、この小
妖精を見とれていればそれでよかったのだ。

少なくとも、その頃は。

『わー、古そうだね。』とか言つて2人は玄関から入ってきた。

『ちゃんと掃除とかしているのかな？』

『ああ、でも割ときちんとしているよ』

『おいおい、ちゃんとさ、いつてきたのか？』

『大丈夫だって、3人の秘密だから誰もわかりやしないよ。』

2人は料理を作ってくれるというのだ。

ありあわせの材料で、2人して、

カレーを作ってくれた。

そして3人で食べたカレーの味は今も忘れられない。

『ねえ、先生なんでこんな田舎の山のがっこうにきたの？』

『もつと、先生の出身の山下県なら、町の学校もあったのに』

「そうだね、でも先生は東京で4年大学に行っていて、

「何か大都会に疲れちゃったって言うか、いやになっちゃってさ。うんと田舎に行きたいなって思ってたんだ。」

「そっかあ。私も1度は都会に行ってみたいな」

なんの、やましいこともなく、3人はこうして小半日を過ごした。夕方、野梨子たちは「また来たいな」とかいつて2人で並んで帰っていった。

2人が帰った後も私は心の高ぶりがなかなか収まらなかった。

野梨子の笑顔、そして野梨子の香りがまだ立ち込めているような気がして。

私はあらぬことを想像していた。

野梨子が卒業したら、絶対、結婚を申し込もうとか。

しかし、こんな少女に結婚なんて10年早いだろう。

今なら分かるが、当時23歳の私は、ロマンのかなたに翼を羽ばたかせていつてしまっていたのだった。

そして今こんなに年取って、がんじがらめの日常にしばらく現状を見るに付け、

あんなにもものどかだった、昔を老人になった私は今しのぶしかないのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8129f/>

青春の肖像 8

2010年11月6日01時46分発行